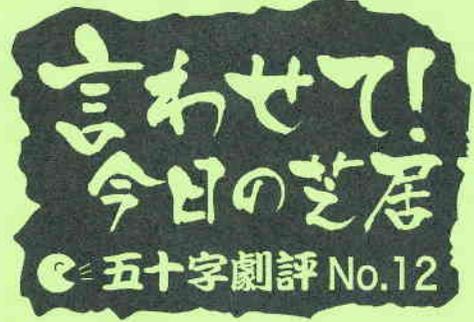


朗読劇 月光の夏 (劇団 東演)



【五十代】

戦争は、あつてはならないこと。朗読劇という少数による声の演技。効果的な衣装とあきない上演時間の適切さ。(女性)

ピアノの存在感と朗読劇とのバランスが見事！戦争＝理不尽！人が人らしく生きられるよう願います。(女性)

【六十代】

悲しくて、暗いつらい内容と思っていました。そのうではなかった！今の時代がそうさせたのか、多くの感動とパワーをもらいました。(女性)

素晴しかったです。簡潔に、静謐でかつ繊細な舞台演出で、戦争のおろかさ、しみじみ胸の奥にせまってきました。(女性)

この話は、戦争中に起きた幾多の悲劇のひとつである。多くは忘れられる。この話が過去の出来事と見過ごせない現状に心が痛い。ピアノ演奏には魅せられた。でも、レクイエムとしては聞きたくない。そんな社会に二度とさせてはいけない。未来を生きる子供たちのために。(男性)



世間が騒がしくなっている。昨今、七〇年前の悲劇を二度と繰り返してはいけない。平和な世の中を次の世代に渡さなければという思いが詰まった作品でした。ピアノも素晴らしく、最後は、海野さんの魂がのりうつったような演奏でした。(女性)

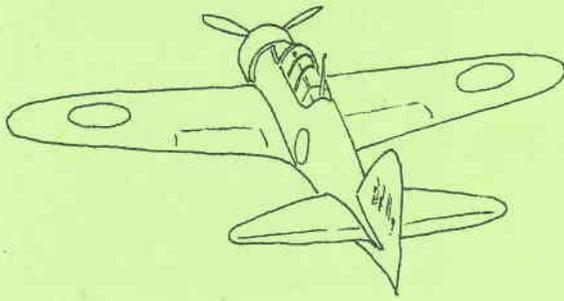
ピアノをひく姿が、強い時、やさしい時、その時々にあつてステキでした。(不詳)

戦争の狂気の時代に成長し敗戦後を生きた人の苛酷な記憶。憲法を守らねば同じ過ちが繰り返される。ピアノも良かった。(女性)

朗読後のピアノ演奏も素晴らしい！感情導入もでき癒され、リラックスして鑑賞することができました。(女性)

朗読劇とピアノリサイタルの2つに参加したようを得をした気分。朗読にあわせて時にやさしくときに激しく。(女性)

舞台には、ピアノと語り手の他は何もない。朗読劇ではあるが、芝居本来の原点を観た思いがした。観る者の想像力を膨らませてくれる、素晴らしい舞台だった。(男性)



ピアノの生演奏と、初めての朗読劇に感動しました。実話を元の内容とか聞いていて目の前に光景が浮かんで涙が止まりませんでした。私たちの今あるのは七〇年前に戦争に負けて出来た憲法があるからだと思えて感
じています。
(女性)

【七十代】

二度とあるまじき戦争。今また世の中は動き始めている。私達は声を上げなくちゃ。ピアノの音が物悲しく聞こえた。
(女性)

曲「月光」は生死への複雑な気持ちでしょうか。ぶつける所がない。戦争は非人間的。戦争のない世を願う。
(女性)

編集スタッフから

本文ふた回り大きくしました。これだと、薄暗い例会場内でも読み易いのではないだろうか。劇評は書き時がありますよね。芝居を観た帰り道、家族や友人と、それぞれが役者や演出家になったつもりで講釈をひとしきり。家につく頃には、よく「漬かって」いるのでは。浅漬け結構、甘口になりがちですが、辛口もたまにはいかがでしょう。素材が新鮮なうちにお早めにお待ちしています。

50字劇評「**言わせて！今日の芝居**」に投稿を！

ここは、会員が「芝居を自由に語る場」です。率直な感想をお寄せください。

署名 “不審” です。ただし、編集の都合上、「男廿」・「～歳代」だけは記入を！

字数 “50字” です。多くの会員の声を掲載したいからです。ご理解を！

締切 11月13日(金)

送付方法

メール： asa.gekijo.gekiyou@gmail.com
(劇評専用アドレス)

FAX： 0166-23-1645
(市民劇場 FAX: 劇評担当宛)

郵送・持参： 〒070-0033
旭川市3条通8丁目 緑橋ビル1号館 2F
旭川市民劇場 劇評担当宛



劇評QRコード

(郵送・FAX・持参の場合、原稿用紙・便せんなど、どんな用紙でも結構です。)